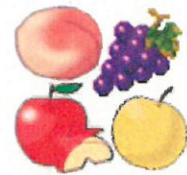


平成27年度 果樹情報 特別号第4号
 ～ももせん孔細菌病に対応したせん定の実践～
 (平成27年11月16日)



福島県農林水産部農業振興課

来年のもも生産に備えて下記対策を徹底し、本病の撲滅を図りましょう。

果樹研究所内の調査では、「落葉が遅れる結果枝先端部」に、ももせん孔細菌病の病斑の形成が多い傾向にあります。

本年のもも樹のせん定は、来年の病害の発生を未然に防ぐ観点から、特に下記の点に留意して作業を進めましょう。

1 冬季せん定の考え方

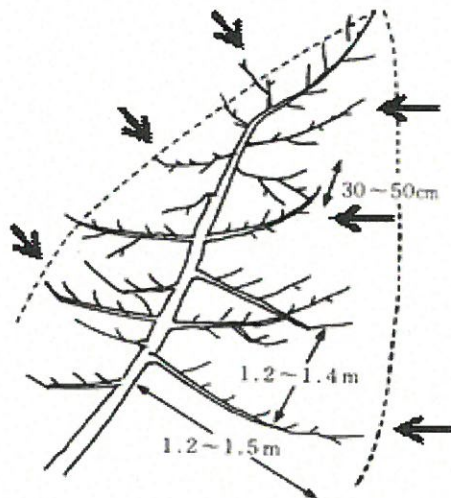


図1 主枝上の側枝の配置 (側面)
 (矢印は勢力枝を示す)

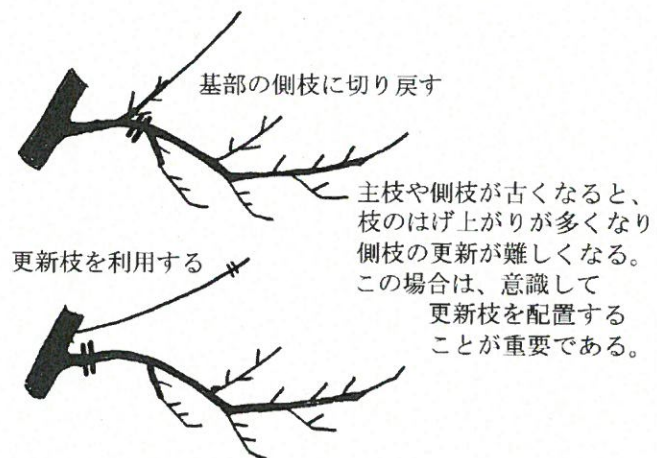


図2 側枝の更新方法

- (1) 側枝間隔を十分にとり、薬剤の通りをよくする (図1)。
- (2) せん定する枝の量は通常の9割程度とし、結果枝をやや多めに残す (春季の発病によるせん除を考慮して、結果枝を1割程度多めに残す)。
- (3) 春型枝病斑や夏型枝病斑の痕跡がある枝は、完全に除去する (特に、本年発生が多かった樹は注意する)。
- (4) 新梢の二次伸長が著しく、充実不良と思われる中～長果枝は、必ず先刈りを行う。

2 春季以降の春型枝病斑の完全除去

- (1) 葉が小さい、新梢の発生が遅れる等、生育不良が見られる枝はせん除する。
 - ア 極短果枝・短果枝は基部からせん除する。
 - イ 中果枝・長果枝・極長果枝は充実した葉芽まで余裕をもって切り戻す。
 (基部に発生が見られる場合はせん除する)
- (2) 樹冠上部に枝病斑が確認される場合は、直下の枝での発病に十分注意する。
- (3) 新梢生長が旺盛となる5月中旬頃までには、園内の一巡を完了させる。
 (花粉がない、少ない品種では、5月一杯程度を目安とする)

3 樹勢回復に向けた整枝・せん定



図3 主枝先端部の活性化

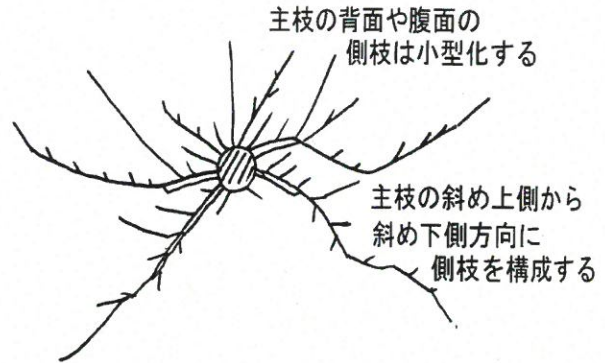


図4 主枝上の側枝の配置（正面）

(1) 主枝、亜主枝

- ア 主枝先端は上向きの枝まで強めに切りつめる（図3）。
- イ 主枝背面や樹冠上部の発育枝は適宜残し、樹勢を確保する（図4）。
- ウ 10年生以上では、先端に向かって適度に勢力枝を配置する（図1）。

(2) 側枝

- ア 切り戻しを主体に強めのせん定とする（ただし形を複雑化させない）。
- イ 間引きは最小限とし、衰弱した側枝を優先的に間引く。

(3) 結果枝

- ア 弱めの結果枝は若い長果枝に更新し、葉数の確保に努める（図2）。
- イ 二次伸長し枝の充実が悪い場合には、20～30%程度切り戻す。
- ウ 着果させない短果枝は全摘らいをして葉数を確保する。

(4) その他

- ア 樹間の距離は十分にとり、混んでいる場合は間伐する。
- イ 老齢樹は積極的に更新する。
- ウ 主枝や更新予定枝の先端等、着果させない部分を多く確保し、樹勢の維持に努める。

発行：福島県農林水産部農業振

興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7339

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL:<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/nogyo-nousin-gijyutu03.html>

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>